

離島巡回歯科診療同行実習に参加して

鹿児島大学歯学部歯学科5年 児玉 和剛

このたび、私は11月11日（月）から14日（木）の4日間、屋久島の西方12kmに位置する口永良部島での離島巡回歯科診療同行実習に参加しました。

口永良部島は、屋久島、種子島とともに、大隅諸島を形成し、全域が屋久島国立公園になっています。また、その形から「南海のひょうたん島」と呼ばれている人口150名足らずの小さな島です。



私は鹿児島県生まれですが、離島へ行くことは滅多になく、今回が二度目でした。一度目は、小学校時代に修学旅行として種子島と屋久島に行ったことがあり、その頃の綺麗な海のおぼろげな記憶をたよりに船に乗り込みました。薩摩半島と桜島をつなぐ桜島フェリーには何度か乗船した経験もあり、気分が悪くなったことがなかったので、今回も船酔いなど全く心配していませんでした。鹿児島市から屋久島までは大型船に乗り、揺れも少なく快適な船旅を楽しみました。ところが、屋久島から口永良部島までは、当日、波が高く、また、船も小さかったので、船が大きく揺れて船酔いするのではないかとハラハラしました。結局、屋久島から口永良部島は海の景色を見楽しむこともできず、私はただ横になって揺れに耐えるだけということになりました。このとき私は、船の進行方向に頭を向けて横になれば楽になるということ学びました。そして、遠方の離島から鹿児島市の病院まで受診して来られる患者さんたちのご負担を身に染みて感じることとなりました。

口永良部島に到着してすぐに、診療の準備の手伝いを開始しました。その際、巡回診療団が携帯した診療器材の充実さに驚きました。診療バスはもちろんのこと、島の診療所に手製で設置された診療スペースは、普段見ている大学病院の診療室と変わらない環境が作られました。離島診療に使用された器材は鹿児島で購入したものが多く見られ、また、県歯

科医師会の歯科衛生士さんと事務の方から、離島診療のために毎年多くの離島に訪れていることを伺いました。これらのことから、離島の多い鹿児島県において、離島巡回歯科診療が県の重要な政策として位置づけられていることを感じました。



さて、診療に来られた患者さんたちは、巡回診療団による歯科治療に慣れておられる様子がうかがわれ、診療開始前から島民の方々が診療予約のために尋ねてこられる方もありました。そして、診療が始まると、治療のほかに検診、メンテナンス、口腔衛生の指導が主に行われました。受診された島民の中には、あまり歯科治療を受ける機会のない患者さんもおられました。そうした患者さんに対して、診療団の先生方が、患者さんの口腔内全体を配慮しながら治療をされていたのが印象的でした。さらに、この離島診療を通して、状況に応じて最善かつ安全な診療を行うことの重要性を学びました。

鹿児島で生まれ育った私にとって、この離島実習は、学生時代の思い出として生涯忘れることのできない有意義な実習となりました。帰りには海は穏やかとなり、船に乗って海を眺めながら、次に離島を訪れる際は歯科医師として訪れたいと思いました。